

平成 30 年度

(平成 30 年 7 月 1 日～平成 31 年 6 月 30 日まで)

事業計画書

一般財団法人 国際協力推進協会

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

- (1) 太平洋諸国・大学生招待計画
- (2) 太平洋諸国・記者招待計画
- (3) 太平洋諸国・リーダー招待計画
- (4) 太平洋諸国・環境セミナー
- (5) 上智大学ミクロネシア・エクスポートツアー支援
- (6) ミクロネシア短期大学・学生招待計画（麗澤大学・上智短大）
- (7) APIC・MCT 協力事業（大学院生支援）
- (8) APIC・MCT 協力事業（プラスチック・リサイクル・プロジェクト）
- (9) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催
- (10) ナンマトル遺跡保存支援事業
- (11) ミクロネシア写真展
- (12) 海洋温度差発電プロジェクト
- (13) ミクロネシア・チューク州観光開発支援事業
- (14) 次年度以降の事業調査費

2. 日・カリブ友好協力事業

- (1) 西インド諸島大学・大学生招待計画（太平洋と同時実施）
- (2) カリブ諸国・記者招待計画（太平洋同時実施）
- (3) カリブ諸国・リーダー招待計画
- (4) カリブ諸国・環境セミナー
- (5) 西インド諸島大学・学長招待計画
- (6) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催
- (7) 次年度以降の事業調査費

3. 国際協力に関する講演事業

- (1) APIC カントリー情報早朝講演会
- (2) 国際協力懇話会

4. 留学生奨学金事業

事業の概要

1.太平洋島嶼国開発協力事業

太平洋島嶼国の信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「太平洋島嶼国開発協力基金」を活用して、太平洋島嶼国の環境、エネルギー及び観光の分野における開発協力事業として、外務省アジア大洋州局大洋州課、太平洋諸島フォーラム（PIF）等と協議も行き、次のプロジェクトを実施する。

(1) 太平洋諸国・大学生招待計画【継続】

太平洋島嶼国の大学生を我が国に招待して、短期間（約1か月）の研修を行い、我が国について（含、環境対策）の理解を深める。本年度もミクロネシア、パラオ、マーシャル諸島等の国から大学生計8名を招待して、上智大学の冬季プログラムに参加、日本についての基礎講義を受講するとともに、環境、エネルギーなどの関連施設の視察を行う。実施時期は平成31年1月を予定。西インド諸島大学学生招待計画と同時に実施する。

(2) 太平洋諸国・記者招待計画【継続】

太平洋島嶼国の有力記者を招待して、我が国の環境保護、防災、エネルギー利用などについて理解を深め、もって我が国の現状についての広報を行う。本年度は、パプアニューギニア、米領サモア、パラオの記者3名及び調整役のベテラン・ジャーナリスト1名の計4名を招聘して、我が国のオピニオン・リーダーのインタビューや環境・防災・エネルギー関連施設の視察を行う。本件招待計画については、諸外国の記者招待に知見のある日本フォーリンプレスセンターの協力を得て実施する。実施時期は平成30年10月を予定。カリブ記者招待計画と同時に実施する。

(3) 太平洋諸国・リーダー招待計画【継続】

昨年度は、①ミクロネシア連邦議会議員およびポンペイ州知事、②ミクロネシア元大統領、③フィジー内閣府次官を順次招待した。いずれも好評であったことから、本年度も太平洋島嶼国のリーダーを我が国に招待して、我が国のオピニオン・リーダーとの会談を行うとともに、環境、エネルギー、観光に関連する視察を通じて、我が国についての理解を深める。本年度は、ミクロネシア連邦チューク州の若手リーダー等を順次招聘する予定。年度内に5～6名を招待予定。

(4) 太平洋諸国・環境セミナー【継続】

我が国からオピニオン・リーダーを太平洋島嶼国に派遣して、我が国が取り組んでいる環境問題等につき講演を行うと共にその機会を利用して、対日理解を深める。本年度は、上智大学大学院地球環境学研究所教授をサモアに派遣して、同国の我が国大使館と協力して講演会を実施する。実施時期は平成31年3月を予定。

(5) 上智大学マイクロネシア・エキスポージャーツアー支援事業（旧マイクロネシア短期大学との協力促進事業）【継続】

太平洋島嶼国の大学と我が国大学との協力関係の一層の促進を図るため、APIC のイニシアチブにより平成 27 年度に開始。即ち、APIC の斡旋により締結された上智大学・上智短期大学とマイクロネシア短期大学の連携協定の具体策として、平成 27 年度と 28 年度に、上智大学と上智短大の学生に対して環境に関する夏季研修旅行として実施されたが、平成 29 年度は上智大学の単位付科目として実施された。本年度も上智大学の教授でもある常務理事が事前の講義を行うとともに、現地にも同行し、上智大学から APIC に出向している職員が事前にマイクロネシア短大に赴いて調整を図ることにより併せて同職員の能力開発も行うこととしている。本年度はナンマトルの専門家である片岡前関西外国語大学教授も講師として派遣予定。実施時期は平成 30 年 9 月を予定。

(6) ミクロネシア短期大学・学生招待計画(麗澤大学・上智大学)【継続】

上記 (5) が日本の学生がマイクロネシアを訪問するのに対し、逆にマイクロネシアの学生を日本に招待しようと、一昨年度から開始。今年度も、マイクロネシア短期大学の学生 4 名を招待し、麗澤大学及び上智大学(それぞれ 2 名ずつ)において聴講させる。本邦学生との交流、上智大学での合同環境研修などを通じ、我が国及びマイクロネシア連邦の大学生レベルでの交流を一層深化させる。実施時期は平成 30 年 11 月中旬を予定。なお、昨年度までは、上智短大で受け入れしていたが、今年度は受け入れが困難なため、上智大学での受け入れとなる。

(7) APIC とマイクロネシア自然保護基金 (MCT) との協力事業【継続】

パラオ、マイクロネシア、マーシャル諸島、グアム及び北マリアナ諸島の 3 カ国 2 地域は、生物多様性を保全し持続可能な自然資源の利用を図るため、「マイクロネシア・チャレンジ」という共通の環境政策を策定し、環境保護のための資金を積み立てているところであるが、この資金の管理を委託されているのが国際環境財団である Micronesia Conservation Trust (MCT) である。APIC は、2014 年 10 月、MCT との間で連携協定を締結し、平成 27 年度、平成 28 年度は、豚舎の排泄物処理案件、貯水タンク案件と具体的なプロジェクト案件を支援した。昨年度は、長期的には環境に携わる人材育成も意義のある支援であるとの観点から、上智大学と協議した結果、上智大学が大学院地球環境学研究科で受け入れ可能であるということであったので、MCT から推薦があった実務者に対して大学院レベルの高度な教育の機会を与えるという、いわゆる APIC-MCT 研修制度を創設し、昨年 10 月から 2 名が上智大学大学院地球環境学研究科で学んでいる。この事業を継続するため、本年 3 月 22 日に、上智大学・MCT・APIC 間で基本協定が締結され、本年 10 月にも 2 名の留学を予定している。実施時期は平成 30 年 10 月入学を予定している。

(8) APIC とミクロネシア自然保護基金 (MCT) との協力事業

プラスチック・リサイクル・プロジェクト【新規】

ミクロネシアにおいては、ペットボトルなどのプラスチックごみが環境を汚染しており、一刻も早い対策を講じる必要があることから、MCT は、草の根無償の対策事業にできないか日本大使館とも協議を開始しているところであるが、パラオのリサイクルセンターの成功例があるので、同センターの協力も得て案件を検討したいとしており、その準備を支援しようというもの。

(9) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催【継続】

上智大学との連携協定に基づき、これまで環境セミナーを開催してきた国や環境関連団体とのネットワークを構築することとし、カリブからの参加者も別途カリブ案件として計上。ミクロネシア (MCT) 等からの参加者の旅費、滞在費、会議費等を負担。実施時期は本年末の予定。(上智大学と協議中)

(10) ナンマトル遺跡保存支援事業【継続】

ユネスコ世界遺産に登録された FSM ポンヘイ島のナンマトル遺跡について、ナンマトル遺跡の第一人者である片岡前関西外国語大学教授等の協力を得て、いかなる協力が可能であるか検討する。昨年度は、遺跡の案内板 (陶板) の制作を支援したところであるが、今年度は、案内板の日本からの輸送費や観光促進のための印刷物 (英語、日本語、ポンペイ語) の作成などを検討。実施時期は未定。

(11) ミクロネシア写真展【継続】

平成 28 年度事業として、上智大学においてミクロネシア写真展 (チューク環礁・ザビエル高校) 及びフロイド・タケウチ氏の講演会を開催し、平成 29 年度も、10~11 月に津田塾大学で写真展及び講演会を、12 月~平成 30 年 1 月に JICA 地球環境広場において写真展を開催したところであるが、今年度も、11 月に、東洋大学において実施予定。

(12) 海洋温度差発電プロジェクト【新規】

2019 年 5 月開催予定の ADB (アジア開発銀行) の年次総会にて海洋温度差発電を PR するブース出展を検討。

(13) ミクロネシア・チューク州の観光開発支援【新規】

本年 10 月から、ニューギニア航空の成田・チューク直行便が週 2 便就航することが決定したことに鑑み、APIC の事業として、掲げている 3 つの目的 (環境、エネルギー、観光) の「観光」分野の支援として、いかなる支援が可能であるか検討する。

(14) 次年度以降の案件調査費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用 (予備費)

2. 日・カリブ友好協力事業

カリブ諸国の信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「日・カリブ友好協力基金」を活用して、カリブ諸国の環境、エネルギー及び観光の分野における開発協力事業として、外務省中南米局カリブ室、カリブ共同体（カリコム）事務局等とも協議の上、次のプロジェクトを実施する。

(1) 西インド諸島大学・大学生招待計画【継続】

昨年度に引き続き、西インド諸島大学各校(ジャマイカのモナ校、トリニダード・トバゴのセント・オーガスティン校、バルバドスのケープヒル校、オープンキャンパス)の大学生計8名を日本に招待して、上智大学において日本についての基礎講義を受講するとともに、環境、エネルギーなどの関連施設の視察を行う。実施に当たっては、外務省及び上智大学と協力を行う。実施時期は平成31年1月を予定。太平洋諸島大学生招待計画と同時に実施する。

(2) カリブ諸国・記者招待計画【継続】

平成28年度は、ジャマイカとトリニダード・トバゴの記者2名、平成29年度は、ジャマイカ、グレナダ、バルバドスの記者3名を招待した。本年度は、モントセラト、セントビンセント及びグレナディーン諸島、トリニダード・トバゴの記者を招待し、我が国のオピニオン・リーダーのインタビューや環境・防災・エネルギー関連施設の視察を行い、我が国の環境保護、防災、エネルギー利用などについて理解を深め、我が国の現状についての広報を行う。外務省及び日本フォーリンプレスセンターの協力を得て実施するものである。実施時期は平成30年10月を予定。太平洋記者招待計画と同時に実施する。

(3) カリブ諸国・リーダー招待計画【継続】

平成28年度に、ジャマイカ、トリニダード・トバゴ、バルバドス及びカリコム事務局の若手リーダーを招待したのに続いて、平成29年度はジャマイカの教育大臣を招待した。本年度も外務省カリブ室、大使館と協議の上、1～2名招待する。実施時期は未定。

(4) カリブ諸国・環境セミナー【継続】

我が国からオピニオン・リーダーをカリブ諸国に派遣して、我が国が取り組んでいる環境問題等につき講演を行い、対日理解を深める。平成28年度はジャマイカ、平成29年度はバルバドスにあるUWIのキャンパスにおいて、上智大学大学院地球環境学研究科教授によるセミナーを実施した。本年度は、トリニダード・トバゴにおいて実施予定で、外務省からは、日本がオブザーバー国として加盟したカリブ諸国連合（ACS）が開催するACSの環境関連会議開催の日程に併せての開催の要望がある。9月実施予定。

(5) 西インド諸島大学・副総長・学長招待計画【継続】

西インド諸島大学の副総長（実質的なトップ）及び各分校(ジャマイカ、トリニダード・トバゴ、バルバドス)学長3名を同時に招待する予定であったが、日程の調整が難しいため、順次実施することとし、平成28年度にケープヒル校（バルバドス）学長、平成29年度にセント・オーガスティン校（トリニダード・トバゴ）学長の招待計画が実現した。平成29年度には、UWIの副総長およびモナ校(ジャマイカ)学長の招待も計画していたが、日程が調整できず、実現できなかった。本年度も、引き続き、実施すべく調整を図る予定。我が国大学との意見交換会、環境、エネルギー、観光に関連する視察を通じて、我が国についての理解を深める。実施に当たっては、外務省及び上智大学と協力を行う。実施時期は、平成30年秋までに実施予定。

(6) 上智大学地球環境学研究科との環境に関するシンポジウム開催【新規】

上智大学と連携協定に基づき、これまで環境セミナーを開催してきた国や環境関連団体とのネットワークを構築する。UWI ケープヒル(バルバドス)校資源管理・環境学センター(CERMES)所長の Adrian Cashman 教授、UWI の海洋研究所(Marine Laboratory)の Dayne Buddo 博士(現 Alligator Head Foundation 所長)などを招待し、環境セミナーを開催し、これまでのネットワークを広げる。同時に太平洋からも MCT や TNC を招待(又は自由参加)する。上智大学と共催。実施時期は本年末を予定。(上智大学と協議中)

(7) 次年度以降の案件調査費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用

3. 国際協力に関する講演事業

(1) APIC カントリー情報早朝講演会【継続】

本件早朝講演会は、外務省幹部、在外大使による時局の日本の外交課題や激動する国際情勢などについて質の高い内容の話題を提供する講演会として、参加者から評価が高い。本件講演会は APIC が諸活動を展開する上で欠かせない事業であり、今後とも会員の期待に沿えるように毎月一回(8月を除く)企画して行く。

(2) 国際懇話会【継続】

同様の外交課題・国際情勢等をテーマに小規模の懇話会(東京、及び、地方)を実施する。

4. 留学生奨学金事業【継続】

ザビエル高校(ミクロネシア連邦チューク州)には、ミクロネシア連邦のみならず、パラオ、マーシャル諸島の最優秀の生徒が入学する。卒業生には、ミクロネシア連邦モリ前大統領を始めとしてそれぞれの国のリーダーを輩出している。このような事情もあり、APIC が上智大学と協力して開始した本件「留学生制度」については、3カ国の首脳の間で極めて高い評価が与えられている。

本件留学生協定に基づき、2014年9月から第1期生として Mary Helen Mori、2015年9月から Risa Oue、2016年9月から Andrei Miguel Ronquillo、2017年9月から Shaun Mingii と Liana Preston-Irons が上智大学に入学している。今秋には、Paul Charley, Jr. と Chloe RosAnn Arnold が入学する予定である。

APIC としては今後募金活動を積極化するとともに、留学生に対する生活費等の支給を含め留学の支援を行っていく。(なお、APIC は旅費、生活費を負担、上智大学は学費、寮費を負担。)